

# ファッション誌における「自分らしさ」の表象とその変遷

## —働く女性向けファッション誌に注目して—

専修大学文学部ジャーナリズム学科4年

増淵晴菜

### 1. 研究背景と目的

2000年代以降、「青文字雑誌」と呼ばれ、自分が好きな服を着ることを提案する女性ファッション誌が台頭した。その一方で、男性を意識して周囲が求める服装を提案してきた「赤文字雑誌」はそれまでの人気は凋落し、女性ファッション誌では、異性から自分へと、意識される対象が変化している。

現在では、『MORE』や『CLASSY.』など、働く女性を読者対象とした女性ファッション誌でも「自分」を意識した内容のキャッチコピーが登場している。しかし、このようなファッション誌の読者は、特に仕事服や働き方などにおいて、自分の個性や意思を優先することが必ずしも容易ではないと考える。では、ファッション誌がどのようにして自分を意識した表現、すなわち「自分らしさ」を提示しているのか、疑問が生じた。

そこで本研究では、働く女性向けファッション誌を対象に記事分析を行い、「自分らしさ」の表象とその変遷を調査することで、どのように「自分らしさ」を捉え、読者に提示してきたのかを明らかにすることを目的とした。そして、分析結果から「自分らしさ」の表象が読者に与える影響と、ファッション誌で「自分らしさ」が表象される背景について考察する。

なお、本研究では意味が明確に定まっていない「自分らしさ」を「自分の個性や意思が表に出ている状態」と定義する。

### 2. 研究方法

研究対象は、現在も刊行され、女性誌分類表などで共通して働く女性に関連するカテゴリに分類されるファッション誌『MORE』『CLASSY.』『BAILA』とする。その中から、「自分らしさ」「自分らしく」「自分らしい」「私らしさ」「私らしく」「私らしい」の6つの言葉のうち、いずれかが含まれる記事を雑誌記事索引データベース「Web OYA-bunko」を用いて抽出する。対象期間は、記事の初出から2023年7月31日までとする。

そして、抽出記事数をもとに行う「計量的分析」と、実際に抽出した記事を読み込む「質的分析」の2つの方法を用い、「自分らしさ」表象の出現傾向や表現されている内容の特徴を明らかにする。

### 3. 研究結果

はじめに、計量的分析の結果を述べる。有効記事数は『MORE』91件、『CLASSY.』45件、『BAILA』13件の合計149件となった。

5年ごとの年代別内訳を見ると、「2020～2023年」の時期が最も記事数が多かった。他の時期と比較しても、「2020～2023年」は急激に記事数が増加していることから、近年「自分らしさ」に焦点が当てられ、表現される傾向にあるといえる。

一方で、記事の初出は『MORE』の「1984年3月号」であり、働く女性向けファッション

誌では「自分らしさ」が約 40 年前から現在に至るまで表象され続けていることがわかる。

続いて、質的分析の結果である。抽出記事を読み込んだ結果、「自分らしさ」が表象される記事の内容ジャンルは大きく分けて4つ、詳細には 15 個に分類することができた。本研究で確認できた内容ジャンルの一覧と登場回数をまとめたものが表1である。

表1 「自分らしさ」表象記事の内容ジャンル一覧・登場回数（数値単位：回）

|       |   |
|-------|---|
| おしゃれ  | ファッション (59)<br>美容 (24)  |
| 生活    | ライフスタイル (53)<br>仕事 (19)<br>結婚 (13)<br>恋愛 (7)<br>育児 (2)<br>インテリア (1)<br>心理 (1) |
| 趣味・娯楽 | エンタメ (16)<br>スポーツ (2)<br>旅行 (1)   |
| その他   | 礼儀・作法・マナー (4)<br>過去の話 (2)<br>書籍紹介 (1)   |

「自分らしさ」はファッション記事で最も多く表象されていたが、人々の価値観や人生観も含めたライフスタイルに関する記事も多く、中には礼儀・作法・マナーを紹介する記事も含まれていた。

また、「自分らしさ」という表現を用いて示される意味は 13 通りあることがわかった。具体的には、①着こなし、②表現、③個性、④生き方、⑤発見、⑥選択、⑦働き方、⑧自覚なし、⑨楽しみ、⑩前向き、⑪残すもの、⑫必要なもの、⑬その他（モノ）である。

その中で、1990 年代から 2000 年代前半までは「発見、自覚なし」に関する内容が多かったのに対し、2000 年代後半から現在は「表現、

着こなし、生き方、楽しむこと」を表す内容が多くなっていった。

そして、「自分らしさ」の表象形式は、大きく2つの「型」に分類できた。1つは様々なアイテムや事例を用いて自分らしくいられる方法を提案する「提案・紹介型」、もう1つは記事に登場する人物の生き方や考え方を提示する「自己表現・主張型」である。

しかし、表象形式が2つ存在するとはいえ、ファッションやメイク、人々の考え方などを通して「自分らしさ」の例を読者に向けて提示していることは共通している。どちらの型も「自分らしさ」の具体例を提示し、「見本・手本」としての役割を果たしている。

抽出した全 149 件の記事のうち、全体の約 17%にあたる 25 件が広告記事であったことに加え、全体の 43%にあたる 65 件は「自分らしさ」がタイトルにのみ表象されている、もしくは、抽出時には確認できても、該当記事内には「自分らしさ」が表象されていないという状態であった。「自分らしさ」について詳しく解説されることなく、商品の紹介のために用いられていたり、注目されやすい場所で表象されていたりしており、「自分らしさ」の表象には読者を惹きつけるための宣伝としての役割が存在しているといえる。

また、「自分らしさ」という、「自分」に焦点を当てた表象であっても、その中には「他者からこう見られたい」「他者がいるからこうする」というような表現も見受けられた。記事の中で表象される「自分らしさ」は、必ずしも「自分」中心に考えられているわけではなく、「他者」の存在が物事の判断基準となっている場合があるということが窺える。

加えて、特にファッション記事において「さりげなく」という言葉や、さりげなさを連想させる表現が複数回見受けられた。自分の個性を積極的に出していくのではなく、あくまで「さりげなく」表現していくことが

推奨されており、「自分らしさ」は「少しずつ取り入れていくもの」であるという見方が存在することが明らかとなった。

#### 4. 考察と結論

本研究の分析対象雑誌において「自分らしさ」が表象される場面は多様であり、自分が好きな服を着ることだけを意味するわけではなかった。必ずしも自分のことだけを優先するのではなく、周囲の環境を考慮しているということが特徴的である。

そして、記事で提示される「自分らしさ」の意味は、新たに見つけ出す状態から、時代とともに自分自身に備わるものを表現していくことへと変化した。

抽出した記事を分析する中で、「自分らしさ」を否定的に捉える描写は見受けられなかった。むしろ、ファッション記事のキャッチコピーやインタビュー記事で登場する人物のコメントなどでは、「自分らしくありたい」という願望が見受けられ、「『自分らしさ』を持つこと、表に出すことは良いことである」という見解が見て取れる。また、着こなしやメイク方法などを提案・紹介している記事で「自分らしさ」を取り入れることを促す表現がなされている。

このことから、「自分らしさ」を表象することで、ファッション誌は「自分らしさ」を前面に出すことが自分自身にとって良いことであると捉え、「自分らしさ」を表現していくことを推奨していると考えられる。

しかし、そこで打ち出されている「自分らしさ」には、「他者」に気を配っていたり、「他者」の存在によって「自分らしさ」が引き出されていたりする様子が確認できた。また、「自分らしさ」は「さりげなく、少しずつ」出していくものであるということを読者に提示していた。周囲の環境を意識し、少し

ずつ自分の色を出していくという様子から、「自分らしさ」を表現していくことに対して守りの姿勢、すなわち「保守的思考」が伴っているといえる。

このような保守的な考え方が見られるのは、ファッション誌の読者が、自分の個性や気持ちを貫くよりも、限られた範囲の中で「小さな差異」を出していくことを望んでおり、ファッション誌がその求めに応じた情報を提示しているからであると考えられる。

以上のことから、読者のニーズをもとに、ファッション誌では「自分らしさ」を、「自分の個性や意思を優先することのお手本」として表象するとともに、「様々な条件がある中で小さな差異を出していくもの」として提唱していると考察する。

#### 参考文献

- 1.米澤泉 (2014) 『「女子」の誕生』, 勁草書房.
- 2.富川淳子 (2017) 『ファッション誌をひもとく [改訂版]』, 北樹出版.
- 3.藤田結子・成実弘至・辻泉編 (2017) 『ファッションで社会学する』, 有斐閣.
- 4.渡辺明日香 (2011) 『ストリートファッション論—日本のファッションの可能性を考える—』, 産業能率大学出版部.
- 5.榎本博明 (2015) 『<自分らしさ>って何だろう?—自分と向き合う心理学—』, 筑摩書房.
- 6.田中里尚 (2011) 「赤文字系雑誌の 80 年代とその変容: 雑誌『CanCam』を中心に」, 『文化女子大学紀要. 服装学・造形学研究』, 42 号, pp.31-38, 文化女子大学.
- 7.「(どう変わった 2012→2020:下)ファッション誌 将来に不安、おしゃれも堅実に」, 『朝日新聞』, 2020 年 9 月 17 日, 朝刊, p.29, 朝日新聞クロスサーチ, <https://xsearch.asahi.com/kiji/detail/?17017>

83991986, (最終閲覧日:2023年12月5日)

8. 「女性誌ジャンル別一覧表(18~22年に発行された女性誌)」, 『出版指標年報2023年版』, pp.171-172, 全国出版協会出版科学研究所.
9. 「女性総合誌」, 『雑誌新聞総かたろぐ2019年版』, pp.140-146, メディア・リサーチ・センター.